

様式2	令和2年度 清瀬市立清瀬第七小学校	学校評価表
学校教育目標	○よく考える子 ○思いやりのある子 ○健康で強い子	育成を目指す資質・能力及び特色ある教育活動
目指す学校像(ビジョン)	【目指す学校像】 向学心あふれる学校 保護者、地域と力を合わせて子供を育てる学校 【目指す児童・生徒像】 互いに認め合い、支え合い、高め合う児童 【目指す教師像】 向上心をもち、自分の指導に誇りをもてる教師	【育成を目指す資質・能力】 ○健康で強い子…すすんで健康保持増進に努める意欲、基礎的な運動の技能、健康についての知識 ○思いやりのある子…他者の気持ちを理解する力、共感できる力、他者との違いを認める力 ◎よく考える子…基礎的な知識、技能、論理的思考力、問題発見・解決能力、自分の思いや考えを豊かに表現する力 【特色ある教育活動】 ◎学校図書館を活用した問題解決能力の育成…調べ学習室の設置、ICT機器の活用促進 ◎障害者理解の促進…通常学級と特別支援学級との交流学習、特別支援教室についての情報発信
前年度までの学校経営上の成果と課題	【成果】○算数の選択授業実施による5、6年生の基礎的・基本的な学力の定着 ○校内研究推進による教師の授業力向上に伴う、児童の学習意欲の向上(理科) ○学校支援本部「ななサボ」および円卓会議「松山DX」立ち上げによる地域連携の促進 【課題】○理科系以外の授業改善による児童の学力向上(問題解決能力の育成) ○体育授業及び運動時間の確保(体力向上) ○特別支援教育のさらなる充実および保護者への啓発促進	

柱	具体的方策	自己評価		課題と次年度以降の対策	学校関係者評価	
		評価	評価		評価	コメント
		取組指標	成果指標			
確かな学力の向上	校内での研究推進を中心にカリキュラムマネジメントによる継続的な授業改善を行い、児童の学習に対する満足度を高める。	4	3	カリキュラムマネジメントの視点で各教科等の年間指導・評価計画を作成し、令和2年度としては一定の成果があった。しかし、教科や単元によっては不十分な部分もあるので、次年度以降もPDCAサイクルに基づいて授業改善、指導と評価の一体化に向けた取り組みを進めていく。また、学校支援本部との連携をさらに進め、地域教材や人材を生かした体験的な取り組みを行う。	○	・「分からない」除けば95.6%で達成率は4。不十分が0はすごい。 ・卒業生は書道や美術にも優れ、授業の満足度も上がっている。 ・先生方は忙しい中工夫していると感じる。 ・休校や様々な変更のを考慮して「○」の評価です。
	家庭学習に(学年×10分以上)取り組むよう、内容や分量などを精選する。	4	3	全学級で毎日家庭学習の提供を行った。約8割の児童が学年×10分の家庭学習に取り組んでいる。今年度は授業日数が少なかったため、「学校でなければできないこと」「家庭に持ち帰ってできること」を明確にし、家庭と連携しながら毎日学習する習慣を身に付けさせるようにした。次年度以降も同様に、学校では問題解決的、探究的な学習に取り組ませ、ドリル学習などの基礎的・基本的な学習は家庭で進める。	○	・家庭との連携を保護者も強く感じている。 ・10分×学年の取組は良い(同意見2)。その日の体調やスケジュールに応じて、前倒し学習もできたらよい。 ・家庭では友達と大切な時間を過ごしてほしい。10分×学年はを定着させて、メリハリのある生活を送ってほしい。
豊かな心の育成	登下校時のあいさつ励行や来客への会釈等、継続的な生活指導の実践を行う。	4	3	休校明けには、当時は人とすれ会えなかったり発声自体を控えていたりという環境にあっただけ、以前と比較すると相当挨拶ができなくなっていた。しかし、教員の継続的な指導、代表委員会の啓発活動等々によって、年度始めよりは十分できるようになってきた。今後は、「進んで」「気持ちの良い」が課題となっている。キャンペーンイベント等も工夫しながら、引き続きの定期的な指導を各教員にお願いすると同時に、まずは大人が範を示せるようにしていく。	○	・先生方に做って子供の実践が増えていくと思う。 ・励行はよいが教育が100%には無理を感じる。 ・声が少し小さくてもよとする雰囲気や自信を生むと思う。 ・あいさつ運動や週間は今のところ、5・6年がやっていることに低学年が憧れるか。そんな活動が思い出になっている。
	道徳授業、体験活動を学期に一回以上行い、人権や人とのふれあいにに対する意識を高めていく。	4	1	成果指標は、「答えられない」が3割近く、低い評価となった。公開がなく、学校の様子が保護者に伝わりにくい等の理由が考えられるが、上述のような挨拶を励行する授業の工夫を含めて、さらに意図的・計画的に人とのふれあいに係る授業・活動を行っていくと同時に、HPや学級だより等での発信を行っていく。	△	・保護者に情報量の差がある。・実際の達成度は「3」ではないか。 ・「人にやさしく」の授業は良。自分の心を健康にする知識がもっと欲しい。 ・「担任交代後に保護者の心配が引き継がれているか」は、気になる本音。
健やかな体の育成	晴れた日の休み時間での外遊びを励行し、朝遊びの時間も活用しながら、児童の体力の向上を図る。	3	3	毎日の休み時間を見ていると、多くの児童が外へ出てよく遊んでいる。児童アンケートを分析によれば、高学年になるほど体力の向上を実感していない児童が増えている。委員会の仕事などの活動が原因の一つと考えられる。来年度も引き続き、朝遊びやロング昼休みでの計画的なクラス遊びも活用しつつ、体力向上旬間や日々の体育科授業における指導を充実させ、体力の向上を図る。	○	・昨年度以上の取組があった。 ・外遊びで先生と子供の心が縮まる。ぜひ頑張ってもらいたい。 ・朝遊びは自律神経も整える。月・曜にもあれば週のリズムが整う。 ・先生と心が縮まれば子供は嬉しい。行事が少ない今年度の大切な思い出になる。
	早寝早起き・歯磨き・食事・衛生・新しい生活様式といった健康や食に関する指導を、年間10回以上行う。	2	3	今年度は休校による授業時数の削減がある中、限られた条件下で指導の充実を図ってきた。手洗いの声掛けや見守りなど、できることから常時行うよう指導を徹底することで、成果指標が上回った。来年度も引き続き、保健指導、安全指導、学級活動や学級での指導等を通して、新しい生活様式にのっとった指導を家庭とともに行えるよう、啓発を継続するとともに、学校での指導の充実を図る。	△	・子供の時の歯磨きは大人になる際に大切。歯茎の大切さも伝えてくれると、なおよい。 ・今年は授業時間に限りがあり、来年への期待を込めて「△」。 ・感染予防に努めて意識が高まり、実際は表よりも高い数字になるのではないかと。
本校の特色①	通常の学級と特別支援学級との交流及び共同学習を年間5回以上行う。	4	3	今年度は感染症予防のため、各種学校行事が中止になり、通常の学級と特別支援学級との交流及び共同学習の機会を設けることが難しかった。しかし、感染症予防に努めながらできる範囲での交流を進めてきた。今後も昨年度と同程度の交流の機会を設定し、障害のある子とない子が、相互の触れ合いを通じて豊かな人間性を育める指導を充実する。	○	けやき・ひのきの子供と接して様々な理解が得られる。「他の学校もそうすれば」と(卒業生の)我が子が言っている。 ・コロナ禍で機会がありありがたい。実施自体が難しかったのでは。 ・子供同士の隔たりに感じている。
	個別指導計画を作成し、児童一人一人の教育的ニーズに応じた指導目標、内容、方法などを明確にし、指導及び支援を行う。	4	3	個別指導計画の作成・見直しを行い、個人面談などで丁寧に指導・支援について保護者に説明を行うことにより、児童の学習上、生活上の困難を少しずつ解決している。しかし、なかなか解決に向かうことが困難な児童もいるため、医療、SSW、子ども家庭支援センターなどの外部機関と連携し、児童一人一人の教育的ニーズに応えられるようにする。	○	・補習や習熟度別が行われており「○」評価。 ・時間が限られる中、児童にあった指導が続いていると思う。 ・個別指導が行き届いている。(例:まつぼっくり) ・来年度以降もきめ細かな指導を続けてほしい。
本校の特色②	週に1回以上、図書室、調べ学習ルーム、ICT機器、地域図書館の蔵書などを活用した授業を行う。	3	3	校内研究で学校図書館を活用した授業づくりに取り組んできた。また、教科等の年間指導計画にICT活用場面を明記するようにした。しかし、調べ学習室の活用にはまだ課題があるため、次年度以降蔵書を増やしたり、レイアウトの変更を行ったりし、児童がより使いやすい環境整備を行う。次年度GIGAスクール構想で導入される端末を活用し、児童の創造性を育むための指導の改善を図る。	△	・実際は表数字以上の活用があるのではないかと。 ・タブレットの導入で保護者の評価がどう変わるか早く知りたい。 ・本に触れたりパソコンを使ったりが学力向上につながったか、見えてくるのはもう少し先かもしれない。 ・この項目にはとても期待している。
	ホームページの更新回数を年間300回以上行う。	4	1	「やや不十分、不十分」と回答した方の割合が約19%だった。ホームページの更新はほぼ毎日行い、学校の様子は伝えているので、保護者や地域が知りたい情報がどのようなかを捉えたり、ホームページの構成を工夫したりし、新しいニーズに対応していく。また、「分からない、答えられない」と回答した方の割合が約13%だったので、学校だよりや学年だより、保護者会などで学校ホームページが頻りに更新されていることを周知していく。	△	・「更新されていないもの」という意識を変えなければと思う。 ・評価が低すぎる。他の問いもどこまでわかって評価したか不安。 ・通信環境等が原因で、情報を受け取れない可能性もあると思う。